

創刊110周年記念
誇れるふるさと
24地区リレー
 〈vol.10〉

〈神原④ 散策マップ〉

中心市街地として発展してきた神原の歴史を後世に残そうと、2009年に校区子ども委員会(当時)が考案したウォーキングマップに標柱を巡るコースがある。標柱は古く、現存するものは少ないが、マップの製作に携わった福場達朗さん(62)に主なスポットを案内してもらいながら約1時間、約4キロのコースを歩いた。



川沿いや商店街、多彩な景色

標柱巡り、地区発展の歴史たどる



神原ふれあいセンター(①)を出発し、まずは松山1丁目交差点へ。青少年会館(②)のそばには、ときわ動物園の前身である「宮大路動物園跡」の標柱が残る。市民による「1円募金」を元に開

園し、ライオン、アシカなど84種500匹もの動物がいたという。

国道190号沿いを進み、宇部郵便局前で反対車線へ渡る。道路に面した鳥居をくぐって訪れたのは、中津瀬神社(③)。「水神様」として親しまれ、境内にはこま犬の像わりとなるライオンの像が鎮座する。本殿に参拝した後は、宇部新天町名店街(④)へ。国道に並行する全長約3000メートルのアーケード内にはシャッターが下りた店も目立つが、ギャラリーや喫茶店、ラーメン店などが営業中。気になる店に入ってみて、一休みするのもいい。

アーケードを抜けた先

にはヒストリア宇部(⑤)がある。かつてこの辺りに旧中津瀬神社があり、1911年に現在地に移築された。39年に建った旧宇部銀行が山口銀行宇部支店を経て近代化産業遺産として残され、市民交流の多目的ホールとして活用されている。

真締川沿いを歩いて行く「新川渡し場跡」(⑥)が見える。川にまたがった無かったころ、ここから5銭で渡し船を出してもらえたという。炭鉱が開

かれる前は浜辺だった「沖の山波打ち際跡」(⑦)を通って宇部地方卸売市場(魚市場) (⑧)方面へ。漁師町の風情が残る海沿いを、のんびりと歩くのが心地よい。見初地区との境界を進み、最後に「三角公園」と呼ばれる東新川緑地(⑨)に立ち寄る。彫刻家・山内壮夫作の噴水像「鳥とあそぼ」がたずみ、子どもたちの遊び場としても親しまれる。

川沿い、海沿い、商店街と、狭い中でもいろんな景色を楽しめる神原。宇部のど真ん中を、歴史を感じながら改めて散策してみるのも面白い。

次回は西岐波地区。18日スタート。